



埼玉県のマスコット コハトン

ライ ブ ・ レ タ ー  
**Lib. Letter**

2016 Autumn [9～11月]季刊

平成28年9月 1日 通巻 第42号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

## 日本の山 ～信仰の山・生活の山・実りの山～

開催期間 : 平成28年7月26日(火)～9月25日(日)

場 所 : 埼玉県立熊谷図書館2階ロビー

今年から新しい祝日として「山の日」がスタートします。その趣旨は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされています。現代では、登山やハイキング、ウィンタースポーツといったレジャーの場としてのイメージが強い山ですが、山は古くから人々の信仰の対象でもあり、生活の場所として、そこで暮らす人々に恵みをもたらすなど、日本人と山は様々な場面で深く関わってきました。

そこで今回は、「山の日」にちなんで、「信仰・生活・実り」といった、人々と山とのつながりを軸に資料展示を行います。

### 1 山岳信仰

日本の国土の多くは山地によって成り立っています。古来から山の恩恵を多く受け、そして数ある災害も経験しながら自然に山への畏敬の念を育んできました。そして多くの地域で近くにある山を「山の神」として崇拝する信仰が受け継がれていきました。

日本各地の山の名前には、仏教関連のものが数多くあり、仏教の影響を見ることができます。鈴木正崇著「山岳信仰」(中央公論新社)では、「山の信仰と仏教の融合には、山で靈力を獲得する修行を行って、里に下って加持祈祷をして民衆の日々の悩みに対処してきた修験道の影響が大きかった。修験者は山伏や法印と呼ばれ、半僧半俗の在家者が主体で、民衆の生活の中に深く入り込んだ。」と、山と仏教との関係を説明しています。

最近ではユネスコの世界文化遺産として「紀伊山地の霊場と参詣道」(平成16年)「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」(平成25年)が登録されました。

山岳信仰の歴史的文化的価値が世界的に認められた形となったものですが、今後は山岳信仰が育んだ文化や景観を、どう守り・伝えていくのかが、課題となっていくと思われます。

#### 日本各地の山の名称

- ・ 仏教の影響によるもの  
薬師岳 阿弥陀岳 地藏岳 釈迦ヶ岳  
妙高山 毘沙門山など
  - ・ 神の名前によるもの  
荒神山 稻荷山 八幡山 皆神山など
  - ・ 自然現象によるもの  
月山 朝日岳 日光山 光ヶ峰など
- ※山に対する崇高な気持ちの表れから名付けられたのかもしれませんが。

※この章の参考資料「山岳信仰 日本文化の根底を探る」 鈴木正崇著 中央公論新社 2015

## 【山岳信仰に関する展示資料】

162. 1/クマ	熊野 神と仏 植島啓司・九鬼家隆/著	原書房	2009. 9
162. 132/ニツ	日光その歴史と宗教 菅原信海・田邊三郎助/編	春秋社	2011. 10
B163. 1/オ	御岳巡礼 青木保/著	講談社	1994. 10
163. 1/サシ	山岳信仰 日本文化の根底を探る鈴木正崇/著	中央公論新社	2015. 3
163. 1/シロ	白の民俗学へ 白山信仰の謎を追って 前田速夫/著	河出書房新社	2006. 7
163. 1/カ	田端富士三峰講調査報告書 東京都北区教育委員会/編 東京都北区教育委員会生涯教育部社会教育課		1995. 3
163. 1/ハク	白山信仰の源流 泰澄の生涯と古代仏教 本郷真紹/著	法蔵館	2001. 12
163. 1/ヤマ	山の神々 九州の霊峰と神祇信仰 九州国立博物館/編	九州国立博物館	2013. 10
163. 1/ヤマ	山の神と山の仏 山岳信仰の起源をさぐる 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館/編 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館		2007. 3
163. 1/ヤマ	山の霊力 日本人はそこに何をみたか 町田宗鳳/著	講談社	2003. 2
163. 1/ヤマ	山の信仰 田中久夫歴史民俗学論集 3 田中久夫/著	岩田書院	2013. 7
163. 1/レイ	霊山と日本人 宮家準/著	日本放送出版協会	2004. 2
163. 1/レイ	霊場の考古学 時枝務/著	高志書院	2014. 10
雑誌	日本の山岳信仰 世界が目する日本独自の信仰の姿 (別冊宝島 2373) 鈴木正崇/監修	宝島社	2015. 8
B172/クマ	熊野詣 三山信仰と文化 五来重/著	淡交新社	1967
291. 66/コ	〃	講談社学術文庫	2004

## 2 修験道

修験道はシャーマニズム、道教、仏教、神道などの影響のもと平安末期から鎌倉期にかけて成立し、室町時代に教団としての性格をとるようになった宗教です。山中を抖擻（とそう）して修行することにより、超自然的な験力を修め、その力で呪術宗教的な活動をすることを中核にしています。

古来、山寺の修行で知られ、摂関期には弥勒下生の地とされた吉野の金峰山や、院政期に阿弥陀の浄土とされ歴代上皇が繰り返し参詣した熊野で修験道は成立し、鎌倉時代には、金峰山と熊野の間の大峰山系が修験の霊場として確立します。

また、九州の英彦山（ひこさん）、四国の石鎚山、東北の羽黒山、関東の日光山、中部の富士山、白山、立山、中国の伯耆大山などが修験霊山として成立します。

近世には江戸幕府により修験道は、天台宗の聖護院を本山とする本山派と真言宗の醍醐寺三宝院がたばねる当山派に二分され、地域社会に定住した両派の里修験により、鎮守の祭祀や、身近な霊山札所の参詣、加持祈祷などが行われました。

明治政府の神仏分離令により、多くの霊山が神社中心となり、また、修験道禁止令により「修験宗」は真言宗か天台宗に所属させられまし



たが、戦後の国家神道廃止と宗教法人令により、修験集団が教団として独立し、各地で活動しています。

※ この章の参考資料

「神道と修験道」 宮家準著 春秋社 2007  
 「修験道 その伝播と定着」 宮家準著 法蔵館 2012

### 【修験道に関する展示資料】

188. 5/シ	修験道入門	五来重/著	角川書店	1984. 4
188. 5/シ	修験道の精神宇宙 出羽三山のマンダラ思想	内藤正敏/著	青弓社	1991. 4
188. 5/リ	山伏 入峰・修行・呪法	和歌森太郎/著	中央公論社	1964. 9
188. 59/エン	役行者と修験道の世界 山岳信仰の秘宝	大阪市立美術館/編	毎日新聞社	1999. 9
188. 59/エン	役行者と修験道の歴史	宮家準/著	吉川弘文館	2000. 7
188. 59/スセ	図説役行者 修験道と役行者絵巻	石川知彦・小澤弘/編	河出書房新社	2000. 8
188. 5/シ	修験道の歴史と旅 宗教民俗集成 1	五来重/著	角川書店	1995. 4
188. 59/シユ	修験道 その伝播と定着	宮家準/著	法蔵館	2012. 10
B188. 59/シユ	修験道 その歴史と修行	宮家準/著	講談社	2001. 4
188. 59/シユ	修験道ガイドブック	太田巖/著	新人物往来社	1998. 1
188. 59/シソ	新時代に向けた修験三本山の軌跡	役行者千三百年御遠忌記録編纂委員会/編	国書刊行会	2003. 2
188. 59/セソ	千年の修験 羽黒山伏の世界	島津弘海・北村皆雄/編著	新宿書房	2005. 4
188. 59/テリ	出羽三山信仰の圏構造	岩鼻通明/著	岩田書院	2003. 10
188. 59/ハク	羽黒修験 その歴史と峰入	宮家準/著	岩田書院	2000. 10
188. 59/ハシ	はじめての修験道	田中利典・正木晃/著	春秋社	2004. 11
188. 592/エン	役行者と修験道 宗教はどこに始まったのか	久保田展弘/著	ウェッジ	2006. 6
188. 592/シユ	修験教団の形成と展開	鈴木昭英/著	法蔵館	2003. 10
雑誌	山岳修験 (年2回刊行)	日本山岳修験学会	岩田書院 (発売)	1996年11月より所蔵

## 3 富士信仰 (富士講)

富士山は現在では誰でも認める日本の「シンボル」としての存在ですが、江戸時代初期まではまだ単なる“遠い山”でしかなかったようでした。ただ、江戸も後期となると浮世絵にも多く登場し、富士に詣でる「富士講」が大ブームを起こしました。

さらに遥拝だけでなく、近場で富士に登れるように作られたものが「富士塚」です。富士山のミニチュアを作り、手軽に登れるようにした模造物が関東一円に作られました。

こういった富士塚を作ったのが、長谷川角行藤仏 (1541 - 1646) を開祖とする富士講です。富士山に参拝するために講の参加者たちが、お金を積み立てて代表者を選んで参拝させる仕組みを

作りました。これを「代参講」といいます。

「富士山文化 その信仰遺跡を歩く」(竹内靱負著 祥伝社)の一部を抜粋すると、「角行によると、富士山は天地開闢(かいびやく)の始めにでき、国土の御柱(みはしら)であり、万物の根元であるとされる。そして「仙元大菩薩」(浅間大菩薩)という山霊が富士山に住まれ、この菩薩を信仰すれば天下泰平、国家安泰、家内安全を期すことができると教えている…(以下略)」と、あります。

ただし、富士山は女人禁制であり、年配者など体力的に劣る人も代参としての富士山登拝は叶いませんでした。そういった人たちにも富士山登拝の喜びを提供するために、高田藤四郎が築造したのが富士塚「高田富士」です。

高田らは老若男女誰でも富士塚に登ることで、富士山を登拝したのと同じご利益を得られると喧伝し、現世利益を求め人々の共感を得ました。

正月三日の「初富士」夏の「お山開き」「山じまい」の行事のたびに、多くの人が詣で賑わいを見せました。

その後、富士講が盛んになるにつれ、江戸とその周辺で300基以上の富士塚が築造され、現在でも東京や埼玉を中心に、70基近くの富士塚が確認されています。

「富士塚30余年ぶり再開志木の「田子山」修復完了」(朝日新聞 2016年(平成28年)7月2日朝刊 [第2埼玉面] (24p))

志木市にある県の有形民俗文化財「田子山富士塚」が道の崩落などで塚に入山できなかったものを修復し、30数年ぶりに「富士登山」が再開されるとの記事が掲載されました。古くから地元の人々に親しまれている富士塚を修復したという内容からも、人々と富士山に対する崇敬と愛着は今も昔も変わらないということを表しています。

そして江戸の後期に、鳩ヶ谷宿(現:埼玉県川口市)で生まれた小谷三志は、それまでの富士講のあり方を改め、社会に役立つ奉仕を実践することにより世の中の平和につながるとし、不二道(ふじどう)を興しました。その影響を受けた人は、5万とも10万人ともいわれています。

明治から大正にかけても、富士講は根強い支持を受けていましたが、関東大震災や太平洋戦争時の空襲などにより、戦後には富士講は衰退してしまいました。

しかし、最近になり地元の方々により、富士塚の修復や「初山まいり」などの行事が復活し始めています。日本人の心の中にある富士山をはじめとする「山」への崇敬はこれからも引き継がれていくと思われます。

※ この章の参考資料

- |   |               |              |      |
|---|---------------|--------------|------|
| 「富士山文化 その信仰遺跡を歩く」                           | 竹谷靱負著         | 祥伝社          | 2013 |
| 「富士山と女人禁制」                                  | 竹谷靱負/著        | 岩田書院         | 2011 |
| 「鳩ヶ谷市の歴史 ～小谷三志伝記～」                          | 鳩ヶ谷市文化財保護委員会編 | 埼玉県鳩ヶ谷市教育委員会 | 2007 |
| 朝日新聞(朝日新聞 2016年(平成28年)7月2日朝刊 [第2埼玉面] (24p)) |               |              |      |

#### 【富士講に関する展示資料】

- |           |                    |        |      |          |
|-----------|--------------------|--------|------|----------|
| 163. 1/7㍻ | 富士山信仰と修験道          | 大高康正/著 | 岩田書院 | 2013. 12 |
| 163. 1/7㍻ | 富士山と女人禁制           | 竹谷靱負/著 | 岩田書院 | 2011. 6  |
| 163. 1/7㍻ | 富士山文化 その信仰遺跡を歩く    | 竹谷靱負/著 | 祥伝社  | 2013. 7  |
| 163. 1/7㍻ | 富士塚考 江戸高田富士築造の謎を解く | 竹谷靱負/著 | 岩田書院 | 2009. 9  |

163. 1/7シ 富士塚考 続 富士祭の「麦藁蛇」発祥の謎を解く  
竹谷靱負/著 岩田書院 2010. 10
- S289/コ 鳩ヶ谷が生んだ偉人小谷三志、二つなき道を求めて富士講から不二道へ  
特別展図録 鳩ヶ谷市立郷土資料館 1990
- 地図 武州志木宿田子山富士之縮圖 田子山富士保存会 2013  
(貸出不可)
- S709. 1/シ 志木市の文化財 第2集 上・下 田子山富士  
志木市教育委員会/編 志木市教育委員会 1996. 3

## 4 生活の山（狩猟採集）

狩猟採集については旧石器時代から生活のため行なわれていましたが、稲作を始めとする穀物の生産が進むにつれ、北海道地域及び一部の東北地域以外では農耕社会へと変化していきました。古代から中世にかけて狩猟採集はあまり盛んではなかったものの、東北地方では江戸時代に入り鹿の皮や熊の胆生産のために、マタギに狩猟を奨励したといわれています。

明治期に入って、徐々に狩猟採集は衰退の一途をたどり、昭和の戦後高度成長期にはすでに消滅しつつある状況となりました。今日ではその代わりに生活のためでなくレジャーとしての山菜・きのこ狩りを楽しむ方が増えてきています。

山に入って狩猟採集などの生活を行うことについて、そもそも「山」は神が支配する神聖な場所であり、一定期間のみ作法にしたがって入山を許してもらうのが常でした。狩りを行なう際も様々な儀礼をおこない、山の神に感謝をささげていました。そういったしきたりがマタギ社会の中にある数々の儀式の中で執り行われていました。

ただ、実際にマタギといっても農業や他の仕事に従事している兼業の者が多く、狩猟ができない時期は山を下って現金収入が得やすい仕事に就くのが常でした。

最近の流れとして、秋田から青森にかけての世界自然遺産・白神山地では、エコツーリズムと絡めてマタギ文化を紹介しているプログラムといった試みもなされています。

- ※ この章の参考資料「日本の狩猟採集文化」 池谷和信・長谷川政美/編  
世界思想社 2005
- 「マタギのむら 民俗の宝庫・阿仁を歩く」  
野添憲治/著 社会評論社 2011

### 【生活の山に関する展示資料】

- 212/㌦ 東北学 v o l . 3 総特集：狩猟文化の系譜 赤坂憲雄/責任編集  
東北芸術工科大学東北文化研究センター 1996. 2

#### マタギについての語源

所説あり実は意味ははっきりしていません

- ・新潟県地方：マタギは人間に対する山詞（やまことば）として用いている。ただ自らはマタギとは言わない
- ・アイヌ語で狩りを意味する「マタタ」と言う言葉から
- ・山を歩く時に下の部分が股になっている杖を持ち歩いていたことから
- ・「マタ」（マンダという木）の皮を剥いで生業をしている人のこと（出羽、陸奥）
- ・鬼を退治する腕前を持つ人を又鬼といったが、それが語源になった

など…

291. 2/キヲ	北の山里に生きる	みちのくの自然と人生	根深誠/著	実業之日本社	1998. 4
384/シヲ	知られざる日本	山村の語る歴史世界	白水智/著	日本放送出版協会	2005. 5
384. 3/Ma91	深山秘録	伊那谷の木地師伝承	松山義雄/著	法政大学出版局	1985. 9
384. 3/Su84	山の標的	猪と山人の生活誌	須藤功/著	未来社	1991. 12
384. 3/Su98	山漁	溪流魚と人の自然誌	鈴野藤夫/著	農山漁村文化協会	1993. 9
384. 3/Ta19	マタギ	森と狩人の記録	田口洋美/著	慶友社	1994. 4
384. 35/オク	小国マタギ共生の民俗知		佐藤宏之/編	農山漁村文化協会	2004. 3
384. 35/サ	採集	ブナ林の恵み	赤羽正春/著	法政大学出版局	2001. 11
384. 35/ニホ	日本の狩猟採集文化		池谷和信・長谷川政美/編	世界思想社	2005. 7
384. 35/マク	マタギのむら	民俗の宝庫・阿仁を歩く	野添憲治/著	社会評論社	2011. 2
384. 35/ヤマ	山の仕事、山の暮らし		高桑信一/著	つり人社	2002. 12
650. 4/ヤマ	山守りの記		柏樹直樹/著	桂書房	1996. 3

## 5 実りの山（きのこ・獣肉）

きのこ狩りを楽しむ人が多くなりましたが、一番の関心事としては毒きのこについてのことでしょう。実際毒きのこは150種あるのではとされていますが、実際はもっと多いかもしれずはっきりしたことは分かっていません。ですが、実際に毒きのこを食べるという事例は「クサウラベニタケ」「ツキヨダケ」「カキシメジ」の三種がほとんどのことです。

見た目にも普通のきのここと変わりなく、食べられそうな感じというのが誤食の原因となっているようです。実際に食べられるきのこに混ざって売られていることもあるので、できれば自分で見てよく分からないもの、販売している方に聞いてもはっきりとした答えが得られない場合は、買うのを控えた方がいいかもしれません。

毒きのこについての迷信として

- ・赤いきのこは毒きのこ ⇒ 誤
  - ・柄が縦に裂けたら食用きのこ ⇒ 誤
  - ・塩漬にすると毒が消える ⇒ 誤
  - ・ナスで煮ると毒が消える ⇒ 誤
- などがあります。



実際に誤食をした場合はすぐに吐き出して、その後医療機関で速やかな処置が必要です。

きのこは美味しいものも多く、つい多く買ったり採りすぎてしまいがちに。そういった場合の対処として、乾燥（天日乾燥をしてコンロで加熱）や塩漬（茹でたきのこを容器に入れ塩をふり、ふたをする。料理前に塩だしをする。）など、山の味覚を十分に楽しむ方法も紹介されています。

最近、鹿肉や猪肉を使つての料理が多く取り上げられています。獣害対策としてしとめられる鹿・猪を活用する一面もありますが、ジビエ（フランス料理での用語[狩猟肉]）として人気が上がっています。鹿・猪肉の特徴として、高タンパク、低脂肪、低カロリーがあげられ、体脂肪燃

焼やアンチエイジングの作用があるのではとも言われています。

鹿肉の部位による特徴は、バラ（ひき肉、煮込み料理）、背ロース（スジが少なく水分が多い。焼肉など）、肩ロース（煮込み料理）、モモ（肉が多く取れる部位。焼いたり、ポイルしたり活用範囲が多い場所。ハム加工にも適している）、スネ（煮込み料理）、肉ロース[フィレ]（最高級部位）など、牛や豚などと変わらない食味が楽しめます。

鹿、猪は食用だけでなく、革や毛（獣毛）多くの加工品として生かされています。

※ この章の参考資料 「食べられるきのこ」 水野仲彦/著 保育社 1995  
「季刊地域 No.15 獣の恵み 皮・角・肉を利用する」  
農文協 2013 秋（雑誌）

### 【実りの山に関する展示資料】

47/モ	森のきのこ（児童書）	小林路子	岩崎書店	1991.11
BM596	きのこクッキング おいしさいっぱい	本谷滋子/著	家の光協会	1993.8
BM60	山菜基本50 Outdoor practice	水野忠次郎/解説 水野仲彦/写真	森林書房	1987.4
645.39/シ	シカの飼い方・活かし方 良質な肉・皮革・角を得る	宮崎昭・丹治藤治/著	農山漁村文化協会	2016.1
BM657	山菜 見分け方食べ方 カラー版	清水大典・会田民雄/著	家の光協会	1990.2
657.8/ア	山菜入門 野山でおいしい山菜を採り、食べるためのマニュアル集	Outdoor編集部/編	山と溪谷社	1996.3
657.8/キ	きのこ狩りの極意書	生出智哉・井口潔/著	山海堂	1993.9
657.8/キ	きのこ風土記	四手井綱英・四手井淑子/著	毎日新聞社	1976.6
B657.8/ミ	食べられるきのこ	水野仲彦/著	保育社	1995.7
657.8/ヤ	山菜歳時記	柳原敏雄/著	婦人画報社	1968
657.8/ヤ	山の幸 山菜best65・木の身best45・きのこbest50	木原浩・平野隆久/写真	山と溪谷社	1983.7
657.82/フシ	藤原儀兵衛マツタケ山づくりのすべて	藤原儀兵衛/著	全国林業改良普及協会	2011.12
657.82/マツ	まっただけの文化誌	岡村稔久/著	山と溪谷社	2005.1
657.86/サ	山菜採りの社会誌 資源利用とテリトリー	池谷和信/著	東北大学出版会	2003.12
657.86/ワサ	わさび博物誌	長谷川嘉成・鶴飼優慈/編著	金印	2004.4
657.86/ワサ	ワサビのすべて 日本古来の香辛料を科学する	木苗直秀・小嶋操/著	学会出版センター	2006.5
658.2/セ	図説土佐備長炭 21世紀に伝えたいこと	宮川敏彦・谷田貝光克/著	飛鳥出版室	2013.5
658.2/スミ	炭焼きの20世紀 書置きとしての歴史から未来へ	畠山剛/著	彩流社	2003.3
雑誌	季刊地域 No.15 獣の恵み 皮・角・肉を利用する	農文協	2013 秋（貸出不可）	
雑誌	季刊地域 No.23 日本列島ほろ酔い自給圏構想	農文協	2015 秋	
雑誌	R i n y a = 林野 第29回きのこ料理	コンクール全国大会 林野庁	2016.3	



## 6 さいたまの信仰・生活・実りの山

埼玉県は三峯信仰に代表される山岳信仰や、志木市や川越市、川口市の富士塚や富士講、県内各所に残る初山まいりなどの習慣や、山岳信仰と関わりの深い「講」などが行われていた地域です。

秩父山地に近い場所では、鹿や猪を駆除し、肉として提供をしている所もあります。

展示資料は貸出不可のものも多くありますが、館内で手に取ることはできますので、興味のある方は埼玉県と山との関わりを感じてみてください。

### 【さいたまの信仰・生活・実りの山に関する展示資料】

S175/ア	新・三峯山誌 第1集・第2集	秩父宮記念三峰山博物館	1988.8	貸出不可
S175/コ	古文書にみる武州御嶽山の歴史 武蔵御嶽神社及び御師家古文書学術調査団/編	岩田書院	2015.3	貸出不可
S175/ミ	三峰信仰の展開と地域的基盤 三木一彦/著	古今書院	2010.2	貸出不可
S175/ミ	三峯、いのちの聖地 中山高嶺/著	MOKU出版	2012.4	貸出不可
S188/カ	関東の里修験 前川康司/編	前川康司	1998.8	
S188/サ	埼玉の修験 比企歴史の丘	埼玉県立歴史資料館	1994.10	
S188/サ	山上の霊地 子ノ権現・竹寺・高山不動・岩殿観音	飯能市郷土館	2012.10	
S188/シ	修験の世界 笹井観音堂とその配下	狭山市立博物館	2002.3	
S188/フ	富士見の修験道 十玉院と般若院 富士見市立難波田城資料館/編]	富士見市立難波田城資料館	2007.3	
S219.1/ハ	鳩ヶ谷市の歴史 ～小谷三志伝記～ 鳩ヶ谷市文化財保護委員会編	埼玉県鳩ヶ谷市教育委員会	2007	
S239/ハ	鳩山の修験 鳩山町史編集委員会/編	鳩山町	2003.3	
S291.93/フ	武州志木宿田子山富士之縮圖	田子山富士保存会	2013	(地図・貸出不可)
S292.3/テ	天覧山 飯能駅から約3500歩(約40分)の山登り 飯能地区まちづくり推進委員会			貸出不可
S294/ミ	秩父絶勝三峯山名所圖繪	三峰神社社務所	1939.7	貸出不可
S387/ミ	民間信仰のかたち 地域と講 川越市立博物館/編	川越市立博物館	2005.3	
S709.1/シ	志木市の文化財 第22集 上・下 田子山富士 志木市教育委員会/編	志木市教育委員会	1996.3	
	秩父札所巡礼神社仏閣古跡独案内 (デジタルライブラリー)	菊水寺		
	秩父順拝記 (デジタルライブラリー)	竹村立義	1823	

### 展示資料とリストについて

- 展示資料のリストは(請求記号 書名 著者名 出版者 出版年)の順で掲載されています。所蔵館の記載のないものは、熊谷図書館所蔵です。
- このリストに掲載されている県立図書館資料は、展示期間中貸出ができません。貸出は展示終了後から行います。予約は一部資料を除きまして可能ですので、カウンターの職員にお尋ねください。(請求記号の後に【貸出不可】とついているものは館外貸出ができません。)

